

## 今週の株式相場見通し

- \* 日経平均 20,500~21,300円 TOPIX 1,530~1,610
- \* 期待材料 IoT社会の実現 IoT、AI活用による生産性改善 5G時代の到来
- \* 不安材料 貿易摩擦激化 米中経済の成長鈍化 地政学的リスク

先週のFOMCでハト派姿勢が明確に示されたことで、米国S&P500は昨年10月10日の大幅安以降、上値を抑えられてきた75日移動平均線を上抜けてきた。ブルームバーグの集計によると、1月30日までに発表された米国S&P500採用銘柄の2018年10-12月期決算において、181社のうち132社が事前予想を上回り、利益成長率は前年同期比12.8%増と好調に推移している。FRBのハト派転換により、米国株市場では緩やかな景気拡大と緩和的な金融政策が共存し、投資家のリスク許容度の改善によりPERの上昇を伴って株価が上昇していくゴルディロックス相場が復活する展開が期待される。S&P500の2019年予想PERは昨年12月の13倍台から15.9倍まで上昇してきたが平均予想PERは2017年が18.7倍、2016年が17.7倍、2015年が17.4倍であったことを鑑みると、17倍程度まで上昇していく展開も想定される。その場合は、昨年末にかけて大きく売り込まれたアマゾン、アップル、半導体関連などハイテク銘柄が株高をけん引する展開になることが見込まれる。日本企業の決算発表では、米中貿易摩擦の激化やメモリを中心とした半導体投資の先送りにより、昨年末から業績が悪化しており、業績予想の下方修正が散見されている。ただ、ロボットの安川電機やアドバンテストなど半導体関連企業では、2020年以降の5G(次世代移動通信システム)の本格商用サービス導入に向けて、2019年後半から5G関連投資が開始することで業績が上向くことを見込んでいる。実際、アンリツでは5G端末の開発に使う通信計測機器に対する需要が伸びており、通期計画を大幅に上方修正している。2020年代の5G本格普及に向けて、半導体や電子部品、ロボットなど他業界においても、2019年後半くらいから業績改善が進むものと思われ、日本株も戻りを試す展開が期待される。(1月31日現在、松本 直志)

## 今週の予定

	国内	海外
2/4 (月)	メルケル独首相来日(～5日) 三菱UFJFG(8306)3Q決算(16:00)	[中]休場 春節休暇(～8日) [加]ベネズエラ情勢米州14ヵ国緊急会合
5(火)	1月日経日本PMI サービス業(9:30) SUMCO(3436)本決算(15:30) スズキ(7269)3Q決算(15:00)	[豪]政策金利発表(12:30) [米]大統領一般教書演説 [米]1月ISM非製造業景況指数(24:00)
6(水)	トヨタ(7203)3Q決算(13:00) ソフトバンクG(9984)3Q決算(15:00)	[モロッコ]モロッコ石油&ガスサミット(～7日) [ブラジル]政策金利発表
7(木)	北方領土返還要求全国大会 安倍首相が出席	[独]12月鉱工業生産(16:00) [英]イングランド銀行 政策金利(21:00)
8(金)	マイナーSQ 12月毎月勤労統計(9:00) 1月景気ウォッチャー調査	[北朝鮮]人民軍創建日 [米]トランプ米大統領の元顧問弁護士マイケル・コーエン被告が下院公聴会に出席
9(土)	日本維新の会党大会	[仏]柔道グランドスラム(～10日)
10(日)	自民党大会	[エチオピア]アフリカ連合(AU)首脳会議(～11日)
11(月)	建国記念の日	[イラン]革命から40年

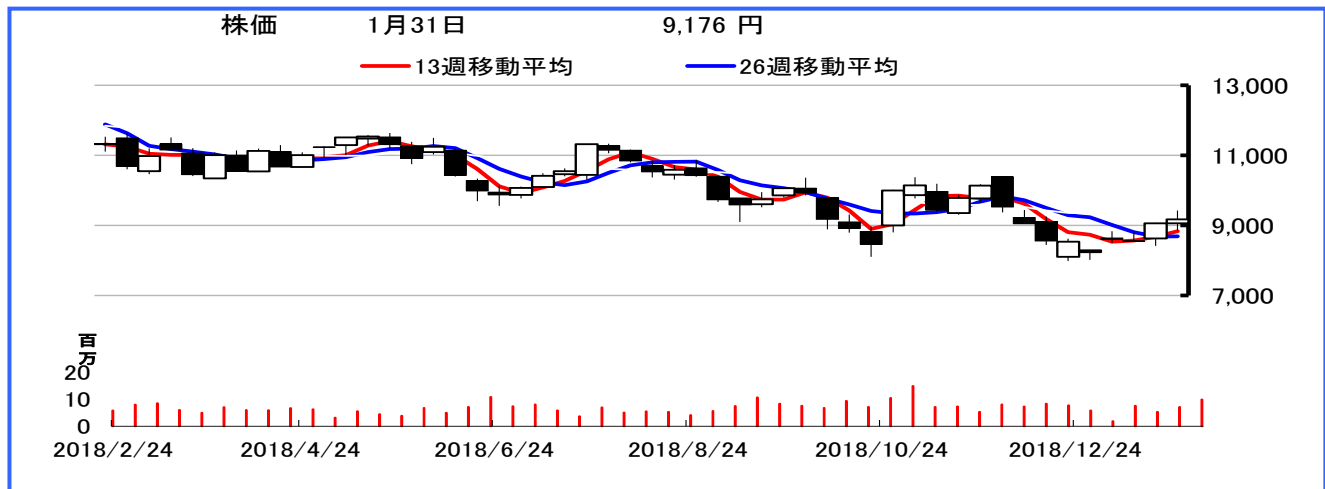
出所はロイター、ブルームバーグ、新聞各紙等より、時刻は日本時間(予定)

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願い致します。

## 今週の参考銘柄

**信越化学 (4063)**

**東証 1 部**



	17年3月期 (百万円) 前年比	18年3月期 (百万円) 前年比	19年3月期(予) (百万円) 前年比	株価(1/31)	9,176 円
売上高	1,237,405 -3.3%	1,441,432 16.5%	1,560,000 8.2%	業種	化学
営業利益	238,617 14.4%	336,822 41.2%	390,000 15.8%	売買単位	100 株
経常利益	242,133 10.1%	340,308 40.5%	400,000 17.5%	PER(予想)	13.5 倍
当期純利益	175,912 18.2%	266,235 51.3%	290,000 8.9%	PBR(実績)	1.6 倍
EPS(円)	412.9	624.3	679.8	ROE(実績)	11.9 %
配当金(円)	120.0	140.0	200.0	配当利回り(予想)	2.2 %
				担当	多功 毅

出所：業績に関する数値は決算短信より

19年3月期3Q累計決算は、売上高で前年同期比13.7%増収(1,457億円増収)の1兆2,068億円、営業利益で33.4%増益(813億円増益)の3,246億円での着地となった。3Q累計決算におけるセグメント別の業況は以下の通り。半導体シリコン事業：小口径ウエハが調整局面となったが、300mmウエハの出荷が高水準を維持しているうえに長期契約に応じた値上げも寄与し378億円の増益。塩ビ・化成品事業：米国シンテック社を中心に塩ビ、か性ソーダで高水準な出荷が継続していることに加えて、原料・製品価格のスプレッド拡大も寄与し257億円の増益。シリコン事業：中国の環境規制強化による現地メーカーの供給能力低下による需給タイト化を背景とした市況上昇、機能製品への注力策が奏功し73億円の増益。電子・機能材料事業：光ファイバー用プリフォーム、一部希土類磁石が調整に転じた一方、半導体向けレジスト、マスクブランクス、電動車向けレア・アースマグネットが好調に推移し67億円の増益。加工・商事・技術サービス事業：信越ポリマー社のウエハ出荷容器がけん引し22億円の増益。機能性化学品事業：セルロースやフェロモン、ポバールが堅調に推移し16億円の増益。世界的に景気が減速感を強める中、高い市場シェアや差別化製品の拡販や市況上昇効果を楽しむことで全セグメントにおいて増益となっている。

通期計画については2Q決算時の上方修正後の予想を据え置いた結果、4Qについては7.1%減収、30.1%営業減益計画となっている。3Qまでの各セグメントの状況を踏まえると保守的計画と思われる、通期業績の計画上振れ着地が期待される。

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願い致します。

## 説明会より

銘柄 (コード) 市場 株価(1/31) 売買単位	コメント
<b>ブロンコ ビリー</b> (3091) 東証1部 2,590円 100株	前期決算は、ディナータイムの苦戦が続くなか、期末にかけてはランチタイムも減速傾向となり、通期既存店売上高は前年比0.7%減に。16店の新店は堅調に推移したものの既存店の減速、想定対比での原価率、販売管理費率の上昇もあり計画比下ブレ着地となる13.5%増収、6.2%営業増益での着地。今期については新規出店を10店と抑制し既存店対策に注力すること、高単価ステーキメニューの強化による客単価の上昇を見込み9.2%増収、5.1%営業増益を計画。(多功 毅)
<b>ラクト・ ジャパン</b> (3139) 東証1部 7,880円 100株	国内最大規模の乳製品商社。18年11月期決算は前年同期比13.9%増収、3.6%経常増益。為替の影響を除くと経常利益は5.46億円の増益。売上と販売数量、経常利益、純利益は過去最高を更新。乳原料・チーズの販売数量は前年同期比14.8%増、売上は21.8%増となり過去最高を更新。国内の生乳生産不足に伴い、輸入原料への需要が増加しており、チーズ市場の拡大も追い風になった。今期は前年同期比8.5%増収、7.2%経常増益計画。TPP11、日欧EPA発効に伴う関税の段階的引き下げも追い風に、今後も業績拡大が期待される。(松本 直志)
<b>コスモス薬品</b> (3349) 東証1部 20,820円 100株	2Q累計決算は、人件費を中心としたコスト増加があったものの、既存店売上高が計画を上回り好調に推移したことでコスト増を吸収。各商品カテゴリ共に総じて粗利益率は安定しており、売上高は計画線の10.2%増収、営業利益は計画を上回る19.8%増益で着地。通期については9.3%増収、1.1%営業増益の従来計画を据え置いた結果、下期は8.5%増収、14.3%営業減益計画となっているが保守的計画と思われ、今後の増額修正が期待される。(多功 毅)
<b>JSR</b> (4185) 東証1部 1,756円 100株	3Q累計決算は、前期の合成樹脂の一時的なスプレッド拡大要因の剥落があったものの、主要製品が揃って堅調に推移しており前年比20.1%増収、2.1%営業増益での着地。合成ゴムはタイヤ市場が低調に推移するが先端品のSSBRの出荷が堅調。合成樹脂も値上げが順調に浸透するうえ、合併新会社も寄与。デジタルソリューションは半導体業界向け先端ArFレジスト、FPD向け配光膜が好調推移。注力するライフサイエンスも着実に需要、収益が拡大。4Qは季節要因による落ち込みが見込まれるが、通期も堅調な決算が期待される。(多功 毅)
<b>不二越</b> (6474) 東証1部 4,345円 100株	18年度決算は前年同期比6.2%増収、5.1%営業減益。工作機械、ロボットが4Qに減速し利益計画は未達。4Qのロボット受注は前年同期比22.5%減。米中で一時的に減少したが、1Qは回復傾向。今期は前年同期比3.1%増収、11.1%営業増益計画。無人化生産ラインなどによるコストダウンや売上増により、増収増益計画。昨年度4Qを底に受注は改善を見込み、昨年上昇が目立ったレアメタルの価格上昇も一巡。ロボットは前年同期比1.8%増収、工作機械は5.7%増収、中国向け売上も2.9%増収計画となっており、悲観的見方はしていない。(松本 直志)
<b>毎日 コムネット</b> (8908) 東証1部 756円 100株	上期決算は前年同期比13.3%増収、53.6%営業増益。経費の未消化や下期への期ズレ、就活サービス会社で採用活動前倒しの動きがあったことで、前年比大幅増益、計画上振れ。不動産ファンドや富裕層の資産管理会社など資金力に余裕のある顧客へ販売を行っているため、金融機関の融資姿勢に大きな変化はなく、販売用不動産の売却は計画通り完了し、学生マンションの入居も引き続き順調。通期計画は据え置きだが、上振れ達成を目指す。(松本 直志)

## いつもあなたのそばで 頼れる金融機関です

やまわ

### ■ ■ ■ 山和証券店舗網 ■ ■ ■

本店営業部	(03) 3668-5412	〒103-0026	中央区日本橋兜町 1-8
金町支店	(03) 3600-6681	〒125-0041	葛飾区東金町 1-22-9
高円寺支店	(03) 3311-1171	〒166-0003	杉並区高円寺南 3-58-25
大岡山支店	(03) 5754-5523	〒145-0062	大田区北千束 3-28-1 パークホームズ大岡山ラヴィアンコート 1F
巣鴨支店	(03) 3918-6311	〒170-0002	豊島区巣鴨 3-33-2
上板橋支店	(03) 3935-0311	〒174-0071	板橋区常盤台 4-22-12
深川支店	(03) 5600-7891	〒135-0005	江東区高橋 11-1
茂原支店	(0475) 25-1151	〒297-0023	茂原市千代田町 1-6 茂原サンヴェルプラザ 1F



### ○金融商品取引法に基づく表示事項

◇商号：山和証券株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第190号  
加入協会：日本証券業協会

◇ご投資にかかる手数料の概要およびリスクについて

- ・国内上場株式等を購入する場合は、約定代金に対して最大 1.1772%(ただし約定代金 230,000円以下の場合は最大 2,700円)の委託手数料をいただきます。
- ・国内上場株式等は、価格の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、発行会社の信用状況の悪化等により投資元本を割り込むおそれがあります。商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので当該商品の契約締結前交付書面をよくお読みください。

### ○山和証券免責事項

- ・本アナリストレポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券の売買あるいは特定の証券取引の勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断と責任でおねがいします。
- ・本アナリストレポートの全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

発行 山和証券調査室